遺伝子タイプ別に治療

県立広島病院 新たな診療科

県立広島病院（広島市南区）は遺伝性の疾患に対応する「ゲノム（全遺伝子情報）診療科」を新設した。患者の持つ遺伝子のタイプを診断することで、特定の病気のなりやすさや治療薬の効きやすさが分かるようになり、患者一人一人に最適な検査や治療法を提供する体制を強化した。（下高充生）

患者（手前）に検査内容や治療方針を説明する土井医師（奥左）たち

不育症・がん… 本人と家族をサポート

診療対象は、妊娠しても流産や死産を繰り返す不育症などの生殖疾患▽小児の先天的な代謝異常▽遺伝的な背景が疑われるがん―など。腫瘍内科や小児科、婦人科などの医師9人が分野の枠を超えて連携する。

遺伝子検査を基に治療や健康管理を進める。専属のカウンセラーや看護師が遺伝性の病気の可能性がある人やその家族の相談に乗ったり、診断後のサポートをしたりする。

ゲノム医療を巡っては2019年、効果的な薬の投与につながると期待される「がん遺伝子パネル検査」が保険適用になった。同病院では自費検査の時に数件だった同検査が21年度は90件に増加。高度な医療を求めるニーズに応えるため、今年4月にゲノム診療科を新設した。

診療に当たる土井美帆子主任部長は「幅広い年代や疾患に対応したい。患者本人や家族の継続的なフォロー体制も充実させる」と話す。今後、重い病気の新生児に遺伝的な原因があるかどうかを調べ、早期の治療につなげる慶応大医学部（東京）を中心とした研究にも参加する予定だ。

「県立広島病院 新たな診療科」中国新聞 令和４年８月３日（水）朝刊10面・くらし

※中国新聞社の承諾を得ています。